

《今朝の聖書から》6章27節でも、イエス様は“人の子”という言葉、“神から使わされた一人子”という意味で用いておられ、ご自身がキリストであるということをはっきりと“証し”しておられたことが判ります。“働きなさい”という言葉があります。私たちは、一生懸命に働くように造られています。イエス様でなくても、誰もが、働くことは良いこと、と思うでしょうし、働きたいとも思っているでしょう。けれども問題は、何を實現するために私たちは働くのでしょうか。また働いてきたのでしょうか。随分難しい問題のように思えます。神様が指し示してくださっている恵みに向かって働く、というのが私たちの目的なのでしょうが、毎日のしがらみは、このことを、すごく困難にしていることにも気付きます。次から次へと悩みはやってきますし、挫折も誘惑もやってきます。アブラハム、ヤコブの歴史を見ても、“神様の祝福が貫かれている”ことが判るのですが、それは、さまざまな、雑音や人生を悩ませる出来事の只中でのことであることも判ります。27節を見ますと、朽ちない食物を“命のパン”として、キリストに委ねられたのが神様ですと言っていることが判ります。次いで、イエス様は質問を受けられます。神の業に励むとは何をすることを言うのですか、と聞きます。“信ずるのが神の業として第一に与えられている”という単刀直入な答えがなされています。キリストを信じるのが、神のなさる仕事であるということから説明が続きます(29節)。信じるための働きではなく、信ずることがもたらす働きを言っておられるのです。私たちもそうですが、“かつてマナをもって、人々が養われたような、あんな印が欲しいものです”と質問を続けます(31節)。33節には、“モーゼがマナを示して私たちを養われたような印”を下さい、とイエス様に迫ります(33~34節)。“そのパンをあなたがたは、目の前に人の子として見ている”とイエス様は答えられます(35節)。スカルの井戸端で、サマリアの女性と交わされた同じ会話が、ここでもなされています。決してかわくことがないとありますが、主を知らない人々が、よく知り、恐れている“死の持っている渇き”また“むなしさの持っている飢え”を克服できる、信じる者だけが努力出来る働きがある、これが“朽ちない食物のために働く(27節)”説明になっています。パウロはこのことを御霊の実として“ガラテヤ書”で、“滅びにたどり着く営み”に対して説明しています。私たちの働きも、主に支えられたものであることを祈りましょう。

週報

2007年 11月 18日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

牧師 村上定幸